

存在へのアプローチ - 暗闇、無限、日常 ポーランド現代美術展

展覧会名称	存在へのアプローチ - 暗闇、無限、日常 ポーランド現代美術展
会期	2013 年 12 月 7 日 (土) ~ 12 月 23 日 (月・祝)
開館時間	11:00 ~ 19:00 (最終入場 18:45 まで)
休館日	月曜日 (祝日の場合は開館、翌火曜休館)
会場	京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA GalleryA, B, C
主催	In Situ 現代美術財団、京都市立芸術大学
協賛	ポーランド共和国文化・国家遺産省
後援	アダム・ミツキエヴィチ・インスティテュート、ポーランド広報文化センター、NPO 法人フォーラム・ポーランド組織委員会、O.pl, Obieg, Notes na 6 Tygodni, Format, Contemporary Lynx
観覧料	無料
URL	http://www.kcua.ac.jp/gallery/
お問い合わせ	ギャラリー @KCUA 075-253-1509
企画	In Situ 現代美術財団、加須屋明子 (京都市立芸術大学総合芸術学科准教授)
関連イベント	12 月 7 日 (土) 16:00- ギャラリートーク / 17:00- レセプション 12 月 15 日 (日) 16:00 - パフォーマンス / 岩田美保 12 月 15 日 (日) 16:30 - アフタートーク / 岩田美保 + 吉岡洋 (京都大学文学部教授) 聞き手: 加須屋明子 (京都市立芸術大学美術学部准教授)

本展覧会は第二次世界大戦後のポーランド美術のエッセンスを凝縮し、いかなる点でそれが国際的に類を見ないものであるのかを示そうとするものです。第二次世界大戦の傷跡、そしてその後に続いた共産主義体制の押しつけから、暗闇が生まれました。制限は、もしそれが極端で全く荒廃させるようなものでなければ、創造性を生み出し発展させるように働くことがあります。メッセージをオープンに伝えられない状況に置かれたら、人はそれを可能にするための方法を工夫するでしょう。そこには感情的要素に彩られた、非常に知的な手法が存在します。

ポーランド人はスラブ系として「東の」ヨーロッパに属すると同時に、カトリック信者として「西の」ヨーロッパ文化に属しているのです。その結果、非常に特徴的な心理が生まれます。つまりヨーロッパの異なる要素の両方を理解できるのです。波乱に満ちた歴史を通じて、常にポーランドは多岐にわたる経験を積んできました。そうしたことで、ポーランド美術の特殊な性格が形成されたのです。知的な内容も成果の一つで、アイデアを総合的な形において、そこにある次元を「追加」して、それを見る人にわかってもらえるよう表す必要があった一方で、必ずしも既存のシステムに頼る必要もなかったのです。そこから現実的、哲学的、美的といった境界を越え、メッセージを伝える方法の発見へとつながりました。1989 年の政治体制の変化により、表現の幅は広がりましたが、長く続く文化の伝統は守られました。

本展に出品される絵画、グラフィック、ビデオ、パフォーマンス、インスタレーション、音楽作品、オブジェなどは、ポーランドの数十年にわたる美術の広い範囲にわたる実践の成果の一端を示すでしょう。またそれらは、日常の現実において絶対的なものを探し求める、個々の作家たちの意思表明でもあります。

(In Situ 財団 マウゴジャータ・サディ)



ミロスワフ・バウカ

(1958 年ワルシャワ生まれ)

ポーランドの彫刻家、インスタレーション作家

1985 年ワルシャワ美術アカデミー卒。

1986 年から 89 年まで「新意識」グループで活動。

1991 年にクレーフェルトでミース・ファン・デル・ローエ賞受賞。

ワルシャワ美術アカデミーで空間スタジオ運営。

オトヴォツクとワルシャワ在住。



イエジ・ベレシ

(1930 年ノーヴィ・ソンチュ生まれ、2012 年クラクフにて没)

1956 年クラクフ美術アカデミー卒。

1960 年《幽霊》シリーズの彫刻作品制作を開始。

1967 年《神託》を開始。

1968 年芸術的宣言「神託 I」を発表。



ボジェンナ・ビスクプスカ

(1952 年ワルシャワ生まれ)

画家、彫刻家、パフォーマンス、映像、

インスタレーション作家

1970-72 年ポズナニ国立美術学校

1972-76 年ワルシャワ美術アカデミーで学ぶ。

1984 年絵画彫刻部門スタニスワフ・ヴィスピアンスキ賞受賞。

2004 年ズィグムント・リトカと共に「In Situ」現代美術財団設立。

PRESS RELEASE

@KCUA

KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY
京都市立芸術大学ギャラリー・アクト【新開地キャンパス内】

お問い合わせ: 075-253-1509 info@cuu@gmail.com

<http://www.kcus.ac.jp/gallery/>

[illegible]

スタニスワフ・ドウルシチ

(1939 年スワフクフ生まれ、2009 年ヴロツワフで没)

他分野にわたる美術家、詩人、具体詩の実験者

単語や文字、数字やシンボルを用いて、ドゥルシチはタイプ原稿や写真プリント、コンピューター印刷、オブジェ、空間的インスタレーション、インタラクティブな作品、単体での作品、多くの要素による複合的システムなど様々な形式の作品を制作。



鴨治晃次

(1935 年東京生まれ)

画家、インスタレーション作家

1959年武蔵野美術大学（東京）を卒業後、ワルシャワ美術アカデミーで学ぶ。

1966 年からはフォクサル・ギャラリー（ワルシャワ）にて作品を発表。



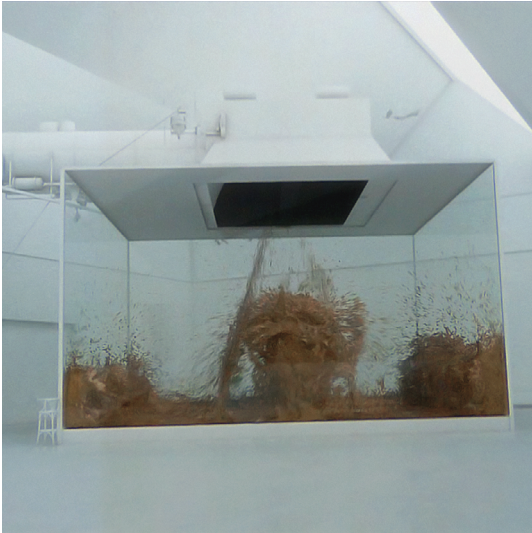
エドヴァルト・クラシンスキ

(1925 年ルトウスク生まれ、2004 年ワルシャワにて没)

戦争中、ドイツの応用美術学校で学ぶ。

戦後はクラクフ美術アカデミーにて学ぶ。

1950 年ワルシャワへ移住。



ノーマン・レト

(1980 年ボハニア生まれ)

ビデオ、映画、ニューメディア作家

ワルシャワ在住。

2007 年ワズドフスキ現代美術センター（ワルシャワ）にて
個展。

2009 年から 2010 年にかけて自伝小説『船乗り』の仕上げに
集中。同タイトルの映画も完成させた。同作品は第 10 回国際
新時代地平線祭で高く評価され、多くの展覧会にも出品された。



ロマン・オパウカ

(1931 年フランス生まれ、2011 年イタリアにて没)

フランス生まれのポーランド画家

グラフィック学校でリトグラフを学んだ後、ウッチ美術デザイ
ン学校で学び、ワルシャワ美術アカデミーを卒業。

1969 年第七回国際美術グラフィックビエンナーレでグランプ
リ受賞。

1970 年に C.K. ノルヴィット美術批評賞受賞。

1991 年にフランス国家絵画賞受賞。



オイゲニウシュ・ルトニク

(1932 年ナトコーレ生まれ)

作曲家、電気技師、音響技師

ポーランドにおける電子音楽、電子—アコースティック音楽の
パイオニア

1967 年ワルシャワ工科大学の電気科を卒。

2007 年パリ国立図書館はルトニクの作品 30 曲を特別所蔵品に
追加。



ズィグムント・リトカ

(1947 年ワルシャワ生まれ)

写真家、映像、インスタレーション作家

写真や映像は独学。

35 の個展や 150 のグループ展に参加。

2007 年文化庁写真部門賞受賞。

2009 年グロリア・アルティス賞受賞。

2011 年カタジーナ・コプロ賞受賞。



ミコワイ・スモチンスキ

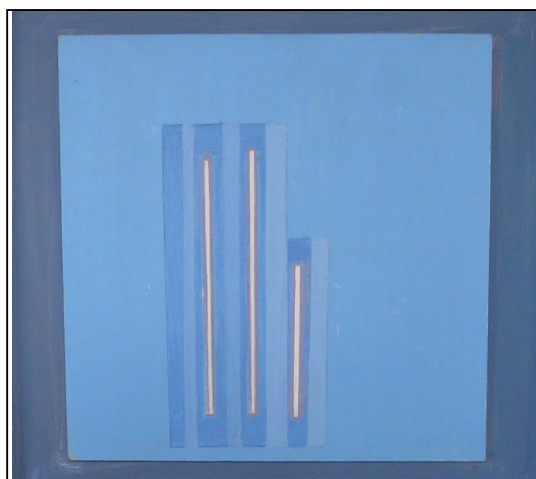
(1955-2009)

画家、インスタレーション作家、ポーランドで最も有名な写真家。

ウッチ美術アカデミー、美術教育インスティテュート、マリー・キュリー＝スクウォドフスカ大学（ルブリン）、ワルシャワ美術アカデミーで学ぶ。

1990 年スタニスワフ・ヴィスピアンスキ賞受賞。

1992 年ヨーロッパ写真賞（ベルリン）受賞。



ヘンリック・スタジェフスキ

(1894-1988)

画家、レリーフ作家、インテリアデザイナー、舞台芸術家、ポスター作家。

1966 年第 33 回ヴェネチア・ビエンナーレ

1972 年ウィーン大学からゴットフリート・フォン・ヘルダー賞受賞。

1994 年ウッチ美術館にて回顧展。

PRESS RELEASE

@KCUA

KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY
京都市立芸術大学ギャラリー・アツア【瀬田地区ギャラリー内】

お問い合わせ: 075-253-1509 infokcu@gmail.com

<http://www.kcu.ac.jp/gallery/>



ヤン・シュフィジンスキ

(1923 年生まれ)

ワルシャワ美術アカデミーで絵画を学ぶ。

コミュニケーションやインフォメーション、社会的実践としての芸術に関心を持って活動。

1976 年コンテクチュアル・アート宣言を出版し（セレム・ガレリエ・S. ペトリ、ルント、スウェーデン）

1999 年から彼ピョートルクフ・トリブナルスキにて「インターアクションズ」国際アクションアートフェスティバルの企画監督をつとめている。